発行年月：2020年（令和2）7月　　作成：特定非営利活動法人 うらおそい歴史ガイド友の会　　発行：浦添市教育委員会

うらおそい歴史新聞

第57号

市民歴史講演会　尚寧王没四百年企画
安里進先生「沖縄の王権祭祀遺跡」

王権を授ける機能、「浦添ようどれ」

「うちなんちゅーは本が好き、歴史が好き」。市立図書館にはそれぞれのコーナーで文字に親しむ老若男女の姿があり、それゆえか恒例の市民歴史講演会は盛況を重ねています。今年は安里進先生のお話。冬至の日にようどれに行ってみようと思われた方も多いのではないでしょうか。

ようどれは浦添断層の頂き近く、美しい曲線をもつ三重の高い石積みの王陵です。当山や宜野湾市などの離れた地域からのようどれも格別で、少し低くなった石垣中央部から崖面の漆喰がわずかに見え、国王の眠る位置を教えているようです。浦添の古語「うらおそい（村々浦々を譲るという意味）」そのものが、ようどれの容姿に他ならないと思うガイドの日々を送っていました。

そして講演会、安里先生のお話です。

「太陽の子」英祖王の血筋にない尚氏が、王権の正当性を浦添ようどれと極楽寺の改修・再建に求めたこと。ようどれが太陽神の霊力を継承する舞台装置としての祭祀場だったこと。尚寧王は英祖王権の正当な継承者として、浦添ようどれに葬られることを望んだこと。そして先生は「私の妄想ですが…」と、ほほ笑みで講演を終えられました。

久高島の冬至の朝日が中御門に差し込む写真があります。太陽神の祭場を尚寧王は見事に完成させ、真珠色の眩いようどれに葬られました。緻密に計算された大改修を決行した尚寧王のエネルギーは、いったいどこからきたのか。ふと、「琉球は一系の王が相次いで今日に至っている、他の姓を立ててはならぬ。早く帰って祖先の祭事をするがよい」と、徳川秀忠が尚寧王にかけた言葉が浮かびます。「う～ん、妄想は楽しい！」。

安里先生に触発された皆さまは、どんな妄想を描かれていますか。

（岡島）

消毒、体温測定と
大わらわの受付嬢（？）でした

三密を避けながら講話を聞く
真剣な様子が窺がえます

高麗瓦

浦添グスクから「癸酉年高麗瓦匠造」の銘入瓦が多数出土する。癸酉と言う年は六十に一度出現する。一一五三年は舜天王以前の時代で資料は多く存在しない。瓦の記録が存在するのは一二七三年の英祖王の時代である。一二九一年と一二九六年に中国の元が二度沖縄に侵攻してきているが英祖王は二度とも撃退している。グスク北側には「ようどれ」という英祖王と尚寧王の墓があります。初期のようどれには瓦葺きの建物が存在していただろうと言われている。発掘調査の結果、発掘で出土した瓦だまりの遺物から建物には癸酉年高麗瓦匠造の銘入瓦が使用されていただろうと言われている。一説にはこの時期に高麗瓦製造説があり、浦添グスクの西側に極楽寺が建立されたという記録もあります。一三三三年は英祖王四代目玉城の時代で琉球国は三山時代をむかえるが瓦の話は伝わってこない。一三九三年の癸酉は察度の時代で海外との交易が盛んとなり浦添グスクの規模が拡大し一三九二年高麗瓦の屋根をひいた高楼館を建てた記録が有ります。その頃、高麗国では元の侵略をうけ、三別抄の乱をへて李王朝が高麗国を滅亡させている。高麗民衆の一部は済州島に逃げ琉球に亡命し帰化したと思われる？復元された鬼瓦の貸し出しを韓国済州島から依頼されることがある。高麗瓦の大きさは大和瓦の三倍の度の大きさで重量もあるこの様な大きな瓦を乗せる建物の柱は頑丈でなければならず柱の下には基礎石が必要だ。鬼瓦の出土はグスク内に建物が存在していた証拠だと言えます。

又、大量の高麗瓦の出土は首里城「京の内」で出土する。それには癸酉年高麗瓦匠造の銘が入っています。多和田真淳先生は「瓦寄せ」といい瓦は割れない限り他の建物に流用されるとのこと。浦添の瓦が首里城にはこばれた可能性があります。この高麗瓦制作に使用された土は沖縄北部の土で焼成方法は還元焼法と言うやり方で焼かれていて今の瓦より硬く焼き色にムラが出ると言う。

復元されたものがようどれ館や南エントランスに展示されていますので興味のあるかた是非お越しください。残念なことにどこで焼かれていたか不明。「癸酉年高麗瓦匠造」の瓦ほか「大天」「天」の文字の入った瓦も出土する。

（山口）

当、友の会は、浦添グスクや浦添ようどれを巡回しています。簡単な説明や道案内等も行いますので、ガイドの名札をご認のうえお気軽にお声かけください。

浦添市教育委員会文化財課　098-876-1234（内線6211～3）

ご利用案内

尚寧王没4百年企画「浦添グスク・ようどれ探検」

今年は尚寧王没４００年に当たることから、尚寧王が生まれ育った浦添グスクに残る遺構や首里までの道を整備した竣工記念碑、一族と自身を葬るために整備した浦添ようどれ等ゆかりのある場所を巡ってみませんか。

●日　時　令和二年八月一六日（日）
八時受付　十一時三十分頃終了
●集　合　浦添グスク・ようどれ館
●参加料　三〇〇円
●募集人員　六〇人
●募集期間　七月一六日～八月一三日
●申込先　浦添グスク・ようどれ館
午前九時～午後五時

主なガイドポイント

浦添グスク・ようどれ館展示室～浦添ようどれ～伊波霊園～浦添家屋敷跡～ディーグガマ～正殿跡か？～浦添グスク内の殿～浦添城の前の碑

※歩きやすい服装で。飲み物、タオル、等各自で持参して下さい。

新型コロナの感染状況によっては、直前の中止もあります。開催の可否については、浦添グスク・ようどれ館にお問い合わせください。

○浦添グスク・ようどれ館

国指定史跡「浦添城跡」のガイダンス施設です。浦添グスクと浦添ようどれの発掘調査での出土品や戦前の写真パネルなどを展示しています。

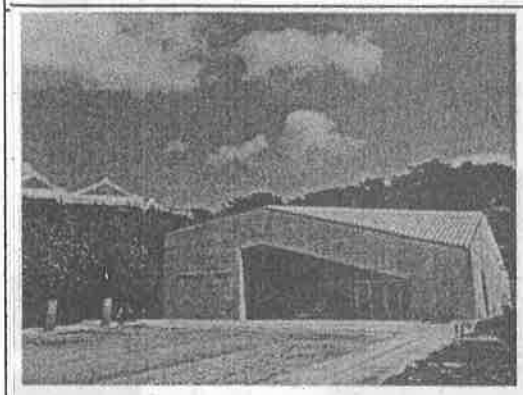
【開館時間】午前9時～午後5時
【入館料】
大人（高校生以上）１００円
小人（小中学生）　５０円
※市内小・中学生は無料
【休館日】
月曜日（祝日は開館）・年末年始
【住所】〒901-2103
沖縄県浦添市仲間2-53-1
【電話】098-874-9345
【アクセス】
琉球バス交通　牧港線（55番）
仲間バス停から徒歩5分

【浦添グスク・ようどれ館】
浦添ようどれ墓室（西室）の原寸大の模型がみどころ。館内は、ＮＰＯ法人うらおそい歴史ガイドが展示の解説も担当します。駐車場も完備しています（大型バスも対応可）。

○浦添大公園南エントランス展示コーナー

浦添グスクの南側入口にある県営浦添大公園の施設です。浦添グスクの模型のほか、グスクを紹介するパネルや出土品のレプリカを展示しています。入場無料ですので、お気軽にお訪ね下さい。

【開館時間】午前9時～午後5時
【入館料】無料
【休館日】
月曜日（祝日は開館）・年末年始
【住所】〒901-2103
沖縄県浦添市仲間2-53
【電話】098-876-3555
【アクセス】
琉球バス交通　56系統
浦添小学校前バス停から徒歩5分

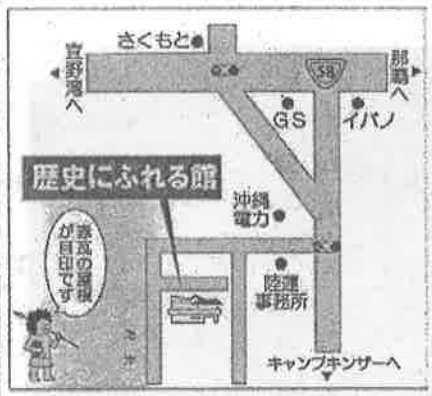


【浦添大公園南エントランス展示コーナー】
施設の中には「うらおそい歴史ガイド」が解説員としていますので、解説をご希望の方は気軽に声をかけてください。駐車場も完備しています（バス対応可）。

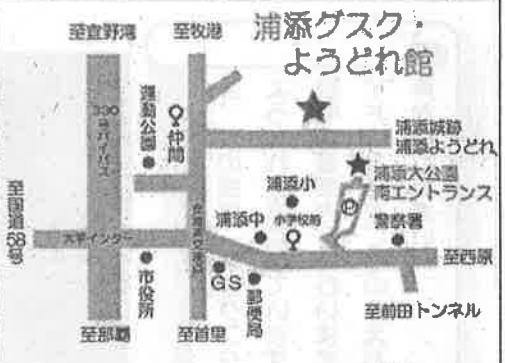
○うらそえ歴史ガイドツアー随時受付中です！

浦添グスクをはじめとした、市内の史跡や歴史スポットを有料でガイドします。

料金　ガイド1名当り（20名まで対応可）
1時間　1，500円／2時間　3，000円
団体でのご利用や、コースや時間などは相談に応じます。お気軽にご相談下さい。
申込先　浦添グスク・ようどれ館
電　話　098-874-9345



浦添市歴史にふれる館の地図



※仲間バス停から徒歩５分

浦添グスク・ようどれ館と浦添大公園南エントランス展示コーナーの地図